

海を守る人たち

茅ヶ崎の海は、消防署海岸出張所と湘南海上保安署の人たちが守ってくれています。海でおぼれている人を助けたり、水の事故にあわないための勉強会を開いたりしています。茅ヶ崎の海を守るために、もしものときに備えて訓練をして、毎日がんばっています！



消防署海岸出張所

心強い水難救助隊！

水難救助隊とは、海や川で事故があった時につけてくれる救助隊で、海岸の海岸出張所から出動します。隊員さんは、潜水士の資格などを持っていて、毎日を鍛えています。一番速く泳ぐ人はなんと！50メートルを26秒で泳ぐそうです。すごいですね。



湘南海上保安署

湘南海上保安署の仕事

藤沢市江の島にある海上保安庁湘南海上保安署のみなさんは、私たちの知らないところで海で安全に遊べるような環境を作ってくれています。海でおぼれた人を救助したり、美しい海の環境を守るために、海の汚染状況の調査をしたり、船の交通安全のための監視・取り締まりを行っています。

巡視艇うみかぜ

うみかぜは主に相模湾を守る海上保安署の巡視艇です。総トン数24トン、長さ19.6メートル、速度28ノット(時速およそ50キロ)、乗員は5人で、色は灰色です。取材に行った日の午前中にも、水難事故があつて、捜索に行っていたそうですが、救助作業は私たちが思っているより、きつと何十倍も大変なんだろうなと思いました。



水難救助工作車と水上ポート



海岸出張所にある水難救助工作車は、海や川でおぼれた人を助けるためにシュノーケルやヘルメット、ウェットスーツやドライスーツなどの道具が入っています。ドライスーツを着ると服がぬれずに水に入ることができるので、寒いときや汚れた川

救助の仕方

もしもおぼれたときは、あわてず力を抜いて、浮いて助けを待つことが一番大事です。今回は、海上保安署の人がおぼれる人の役になり、私たちが救助を行いました。



救助で使う道具は、ボートやうきわ以外にも身近にいろいろとあります。今回は、ペットボトルやビニール袋など、水に浮きやすい物を使いました。はじめは、投げても軽いので届きませんでした。少し水を入れて、重くしてから投げると遠くまで届き、無事に救出することができました。そして、いろいろな道具を使っても、人を助ける気持ちがあれば、人を救出できないということもわかりました。

水上バイク

また、海岸出張所には水難救助のための水上バイクが1台置いてあります。とても大きくて、最高時速は80キロも出るので救助の時には大活躍します。出動する時には、2人で乗って救助に出かけ、「ライフスレッド」という、ビート板を大きくして持ち手をつけたようなものに救助した人に乗せます。



海は敏感！

海上保安署では、みなさんに教わりながら江の島の海水を使って、水の汚れを測る実験をしました。

海水を入れた専用カップに、オレンジジュースを4滴たらして、水質バックテストを行いました。すると、色が変わり、汚れている度合いが100パーセントを超えていました。実際に魚が住めるのは、5パーセント以下なので、たった少しのオレンジジュースで、海の魚は住めなくなりません。私たちの未来のために、水を汚さないようにしましょう。



海のもしものは118番！

もしも海に落ちた人を見たらどうしますか？びっくりして怖くなって逃げないでください。まずおぼれている人に浮く物などをつかまらせて、浮いていられる状態にしてあげましょう。そして、安全を確認したら電話で118番にかけましょう。すぐに海上保安署の人が来て、助けてくれるはずです。みなさんも、「海のもしものは118番」を忘れないでください。

